議会レポート

発行者　鈴鹿市議会議員 石田秀三

鈴鹿市伊船町2751　電話 371-0423

FAX 371-2469

2008.5.29　№１５５

今年は総務委員会に所属

国民健康保険運営協議会長に就任

５月15～16日の臨時市議会で、議長をはじめとする役員の改選が行われました。議長には竹口真睦氏、副議長には伊藤寿一氏が選出され、また監査委員は今井俊郎氏となりました。

日本共産党市議団の役職は、次のとおりです。

◎森川ヤスエ　　文教福祉常任委員・地震防災特別委員
鈴鹿亀山広域連合議会議員

◎石田　秀三　　総務常任委員・議会改革特別委員
国民健康保険運営協議会長

新たに「予算決算常任委員会」が設置される

今年から新たに「予算決算常任委員会」が設置されることになりました。委員は正副議長、監査委員を除く全員29人がなり、委員長には原田勝二氏が選ばれました。

これまで予算や決算の議案は、４つの常任委員会に分割付託されていましたが、これからは予算決算委員会にいったん付託され、その後に各委員会を「分科会」にして審議するということになります。実質的にはあまり変わりませんが、予算や決算を他の議案とは別に審議することで、内容を充実させる条件ができました。

会派の移動もありました

臨時議会の前後に会派の出入りがあり、構成が変わりました。

◎あくてぃぶ21（６人）◎市政研究会（３→６人）◎すずか倶楽部（４人）◎政友会（４→３人）◎公明党（３人）◎緑風会（３人）◎新政会（４→２人）◎日本共産党（２人）◎無所属クラブ（２人）（＊議長を除く）

椿小学校の体育館が改築されました

昨年から工事が行われていた椿小の体育館の改築が完成し、４月26日に「完成を祝う会」が盛大に開かれました。この工事は、例の「耐震偽造事件」を受けて建築確認手続きや耐震基準がきびしく変更されたことにより、工事が長期間ストップし３月完成が危ぶまれていました。何とか最後の頑張りで３月31日に完成、卒業式も31日に延期という綱渡りでした。

新しい体育館は、前の建物より1.5倍も広く、天井も高くなって見違えるようです。西の窓からは入道が岳が大きく見えますが、予定されている「第２名神高速道路」がすぐ西に出来たら、さてどうなるでしょうか。

次は白子小、深伊沢小の順で体育館改築の予定

教育委員会は、順次体育館や校舎の改築を進めていますが、体育館の今後の予定は白子小、深伊沢小とのことで、耐震診断の数値が良くない所から着手します。災害時には避難所にもなる建物ですから、早く整備を進めなくてはなりません。今年から神戸中、そして次に平田野中の全面移転という大事業もあり、学校建設はこれからしばらくの間大忙しです。

３年で成長した「9条の会すずか」

憲法９条を守ろうという呼びかけに答えて、全国の草の根から始まった「９条の会」、わが鈴鹿市でも有志が集まって立ち上げた「９条の会すずか」が、３周年を迎えました。その記念に取り組んだ４月20日の「歌と講演のつどい」は、参加者550人でけやきホールが超満員になりました。

私は当日、入口で切符のモギリをしていましたが、あとからあとから人がやって来るので驚きました。世話人の皆さんも「まあ300人も入ったら上出来」と言っていた予想が外れて、あとで大いに喜びあいました。

小泉、安倍政権の下で急ピッチで進むかに見えた「憲法改正」の動きに、いま多くの国民の声というブレーキがかかっています。改憲派の連中は、草の根の「９条の会」の広がりに敵意をもち、３年以内の国民投票実施に執念をもやしています。しかし彼らの致命的な弱点は、「草の根」の組織がないことです。カネも力もない私たち庶民の草の根の声は、いまや単なるブレーキではなく、日本の進む方向を決めるハンドルを握りつつあるのです。

測量設計業務が超安値の落札つづく

入札改革がすすんできて、市発注工事の落札価格が予定価格の８割台になってきています。かつての談合・高値落札が横行していたころとは、様変わりです。しかし一方では、これでいいのかと首をひねるような、安値のたたき合いというような現象も起きています。

下の表は、測量設計業務の最近の入札結果です。（単位・千円）

種　別	予定価格	落札価格	落札比率	種　別	予定価格	落札価格	落札比率
道路	1,220	730	43.8	道路	1,553	650	41.8
道路	1,607	700	43.5	水道	3,517	964	27.4
道路	2,012	840	41.7	水道	2,922	929	31.8
道路	3,083	1,100	35.7	水道	4,539	955	21.0
道路	7,842	1,468	18.7	水道	4,316	850	19.7

どれも予定価格の半値以下、２割ほどの超安値も10件中３件あります。工事案件は予定価格の７～８割の「最低制限価格」が設定されているので、落札価格もそのラインで止まりますが、測量設計や調査ものには最低制限価格がありません。コンサルタント業者の経費は、ほとんどが人件費だと言われるのに、こんな安値で営業が回っていくのでしょうか。

「競争入札」は、常識的なルールの下での健全な競争が前提です。「談合」とは逆の「たたき合い」も、ルールなき不正常な事態であり、まじめに努力している業者が生き残れなくなります。市当局も「安ければ良い、成果品がきちんと出れば良い」と言っているだけでなく、先の見通しも考えた何らかの対応が必要だと思います。

楽しいバスの旅、大正村と妻籠宿

５月18日、鈴鹿市の共産党後援会で日帰りバス旅行を行いました。岐阜県明智町の「日本大正村」では、大正時代の建物や文化をいまに残す町並みをボランティアガイドさんにゆっくり案内してもらいました。長野県の中山道妻籠宿では、江戸時代からタイムスリップしたような宿場を散策しました。

バスの中では、全員が一言ずつ話す「ミニ演説会」となりました。そして、秋にもまた楽しい行事をやろうということになりました。乞うご期待！

ずいそう

無理難題要求＝イチャモン

大阪大学の小野田正利教授は、学校に押し寄せる「無理難題要求＝イチャモン」を研究している。「子どもの声がうるさい」「音楽の時間は窓を閉めろ」「お母さんが嫌いだから、A子ちゃんとは別のクラスにして」「卒業アルバムにうちの子の写っている写真が１枚少ない」などなど、全国の学校に寄せられるイチャモンに、先生たちは振り回され、悲鳴を上げている。

小野田先生は、地域や保護者から学校への要求は、「要望」「苦情」「イチャモン」の３段階に分けられ、以前は「要望」レベルの問い合わせが多かったが、90年代から「苦情」が目立って増えてきて、そして７〜8年前からは「イチャモン」が急増してきた、という。この時期は、競争原理と市場原理、規制緩和と「構造改革」、格差社会の拡大という流れと重なっている。

社会現象・社会病理としてのイチャモン

このような時代、社会全体に暴力的で攻撃的な心性や感情が広がってきて、イチャモンも各方面に広がっているが、中でも言いやすい学校に押し寄せてきているという。小野田先生は、３年前の小泉首相がやった「郵政選挙」は「イチャモン解散」、５年前ブッシュがはじめたイラク戦争は「イチャモン戦争」だったと、「言ったもん勝ち」「やったもん勝ち」の風潮の代表例にあげている。国家レベルのイチャモンがまかり通るような時代は、恐ろしい。

さて、ではどうしたら解決の方向が見えてくるのか？小野田先生は、「困った親」は「困っている親」でもあり、「助けて」「相談に乗って」という本音を秘めたイチャモンという形で学校に押し寄せていると見る。

小野田先生は、近ごろはやりの「モンスター・ペアレント」という呼び方をしない。モンスター＝怪物は人間ではなく、話し合いの余地なし、排除するしかないことになるからだ。そうではなく、競争社会、格差社会の中で、行き場をなくした悩みのはけ口として、イチャモンという形で救いを求めてくる人として向き合うことが、求められる。

問題は、忙しい学校現場で、そんな丁寧な対応や話し合いが、どこまで出来るかということだが、少なくともイチャモンを持ち込む人に対する認識・評価をちょっと変えてみることが、糸口になるのではないか。